

平成25・26年度 学習指導教材センター 学力向上問題作成専門部
国語科部会活動計画

1 活動のねらい

国語科の学習においては、言語の教育としての立場を重視し、国語を適切に表現し正確に理解する能力を調和的に育成する必要がある。

そこで、テストバッテリー結果や全国学力・学習状況調査等から各領域・事項についての本市の実態を把握し、デジタル教材作成ソフトを用いた基礎・基本の定着と思考力・表現力の育成を図るためのデジタル教材を作成することで言語能力の育成を図ることとする。

2 活動計画

専門部	活動内容	活動計画			
		月	平成25年度	月	平成26年度
学力向上問題作成専門部 国語科部会	・デジタル教材作成ソフトについての共通理解 ・テストバッテリー結果や全国学力・学習状況調査等による本市の実態の把握	5	第1回専門部会 研究の方針検討 活動組織 研究計画立案	5	第1回専門部会 研究計画の確認 教材の検討 指導計画の検討
	・基礎・基本の定着と思考力・表現力の育成を図るためのデジタル教材の作成	9	第2回専門部会 作成内容の確認 教材の作成	9	第2回専門部会 教材の検討 教材の作成
	・ホームページへの掲載と情報発信	2	第3回専門部会 教材の検討	2	第3回専門部会 ホームページへの掲載・情報発信

3 活動の留意点

- ・テストバッテリー結果や全国学力・学習状況調査の結果を踏まえて、デジタル教材を開発する。
- ・小中学校での系統性を踏まえて、教材を作成する。
- ・国語科において落ち込みが見られる内容を重点的に絞り教材を開発する。
- ・作成した教材は、教育研究所ホームページより発信する。

学習指導教材センター 国語教材開発専門部活動報告

1 活動のねらい

国語科の学習においては、言語の教育としての立場を重視し、国語を適切に表現し正確に理解する能力を調和的に育成する必要がある。

そこで、テストバッテリー結果や全国学力・学習状況調査等から各領域・事項についての本市の実態を把握し、デジタル教材作成ソフトを用いた基礎・基本の定着と思考力・表現力の育成を図るためのデジタル教材を作成することで言語能力の育成を図ることとする。

2 活動内容

- (1) 全国学力・学習状況調査等の結果による本市の実態の把握
- (2) 基礎・基本の定着と思考力・表現力の育成を図るための教材の作成
- (3) ホームページへの掲載と情報発信

3 活動状況

(1) 平成25年度

- | | | | |
|--------|----------------|--------|------------|
| 第1回研究会 | 平成25年7月31日(水) | 9:00~ | 学習指導教材センター |
| 第2回研究会 | 平成25年11月19日(火) | 16:00~ | 学習指導教材センター |
| 第3回研究会 | 平成26年2月20日(木) | 16:00~ | 学習指導教材センター |

(2) 平成26年度

- | | | | |
|--------|---------------|--------|------------|
| 第1回研究会 | 平成26年6月13日(金) | 16:00~ | ものづくり体験室 |
| 第2回研究会 | 平成26年8月19日(火) | 9:00~ | 学習指導教材センター |
| 授業研究会① | 平成26年11月4日(火) | 9:30~ | 毛野南小 |
| 授業研究会② | 平成26年11月7日(金) | 9:30~ | 三重小 |
| 授業研究会③ | 平成27年1月15日(木) | 9:40~ | 山前小 |
| 第3回研究会 | 平成27年1月20日(火) | 16:00~ | 学習指導教材センター |

4 研究のまとめ

(1) 成果

テストバッテリー調査の結果や全国学力・学習状況調査等から各領域・事項についての本市の実態を把握し、デジタル教材作成ソフトを用いた教材を作成し、授業実践を行うことができた。

授業実践においては、デジタル教材を活用することにより、漢字の同音異義語の課題に児童が興味・関心をもって取り組むことができた。説明文の授業では、内容を視覚的に表現することで、学習に支援を必要とする児童が内容を捉えやすくなったり、説明文の工夫について、より深く読み取り、自分の考えを意欲的に発表したりすることができた。

また、教材作成と授業実践を通して、専門部員の指導力の向上にもつながった。

(2) 課題

作成した教材について、教育研究所ホームページへの掲載と情報発信により、各学校における活用を図るとともに、教材の更なる工夫改善に努める必要がある。

平成25・26年度 学習指導教材センター 学力向上問題作成専門部
算数・数学科部会活動計画

1 活動のねらい

算数・数学科の学習における数量や図形においては、基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けていくことは大切である。

そこで、テストバッテリー結果や全国学力・学習状況調査等の結果を考慮し、デジタル教材作成ソフトを用いた小学校算数科「図形領域」「関数領域」のデジタル教材を作成することで基礎的・基本的な知識及び技能の習得と思考力・表現力の育成を図ることとする。

2 活動計画

専門部	活動内容	活動計画			
		月	平成25年度	月	平成26年度
学力向上問題作成専門部 算数・数学科部会	・デジタル教材作成ソフトについての共通理解	5	第1回専門部会 ・研究の方針検討 ・研究計画立案 ・「図形領域」の教材作成	5	第1回専門部会 ・研究計画の確認 ・「関数領域」の教材作成
	・基礎・基本の定着を図るためのデジタル教材の作成	9	第2回専門部会 ・作成内容の確認 ・「図形領域」の教材作成	9	第2回専門部会 ・作成内容の確認 ・「関数領域」の教材作成
	・ホームページへの掲載と情報発信	2	第3回専門部会 ・「図形領域」の教材作成	2	第3回専門部会 ・「関数領域」の教材作成 ・ホームページへの掲載・情報発信

3 活動の留意点

- ・小学校算数科「図形領域」「関数領域」のデジタル教材を作成する。
(テストバッテリー結果や全国学力・学習状況調査等の結果を考慮する)
- ・作成した教材は、教育研究所ホームページより発信する。

学力向上問題作成専門部 算数・数学科部会活動報告

1 活動のねらい

算数・数学科の学習における数量や図形においては、基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けていくことは大切である。

そこで、テストバッテリー結果や全国学力・学習状況調査等の結果を考慮し、デジタル教材作成ソフトを用いた小学校算数科「図形領域」「関数領域」のデジタル教材を作成することで基礎的・基本的な知識及び技能の習得と思考力・表現力の育成を図ることとする。

2 活動内容

- (1) テストバッテリーの結果等による本市の実態の把握
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得と思考力・表現力の育成を図るための教材の作成
- (3) ホームページへの掲載と情報発信

3 活動状況

(1) 平成25年度

- | | | |
|---------|----------------------|------------|
| ・第1回研究会 | 平成25年7月9日(火)16:00～ | 学習指導教材センター |
| ・第2回研究会 | 平成25年12月10日(火)16:00～ | 学習指導教材センター |
| ・授業研究会① | 平成26年2月12日(水)10:45～ | 山辺小学校 |
| ・授業研究会② | 平成26年2月14日(金)14:45～ | 山前小学校 |
| ・第3回研究会 | 平成26年2月17日(月)16:00～ | 学習指導教材センター |

(2) 平成26年度

- | | | |
|---------|---------------------|------------|
| ・第1回研究会 | 平成26年7月7日(月)16:00～ | 学習指導教材センター |
| ・授業研究会③ | 平成27年1月19日(月)14:00～ | 青葉小学校 |
| ・第2回研究会 | 平成27年1月19日(月)15:00～ | 青葉小学校 |

4 成果と課題

(1) 成果

テストバッテリー結果や全国学力・学習状況調査等の結果から、本市の実態を把握し、基礎的・基本的な知識及び技能の習得と思考力・表現力の育成を図ることを目指し、小学校算数科の「計算領域」と「図形領域」のデジタル教材を作成して授業実践を行うことができた。

図形領域では、コンパスの使用の仕方の指導において、作図の動画を見せることで、手の位置や力加減、コンパスの傾きについて視覚的に学び取ることができたり、図形の動きを視覚的に見せることで、図形の各移動の素地を養うことができたりするなど、イメージをもたせることができた。計算領域では、繰り上がりのあるたし算の授業において、自分の考えた計算方法を発表させながら、教師が、ブロック操作やサクランボ計算等、めくり付箋を開いていくことで、思考の過程を、より分かりやすく伝え、その考えを共有することができた。

また、教材作成と授業実践、授業研究会を通して、専門部員の指導力の向上にもつながった。さらに、校内で紹介するなど、活用を広げることもできた。

(2) 課題

デジタル教材を使用する場面と具体物や掲示物を作成する場面など、学習する内容によって、より効果的な教材を研究し、活用していきたい。

また、作成したデジタル教材について、教育研究所ホームページへの掲載と情報発信により、各学校における活用を図っていきたい。

平成25・26年度 学習指導教材センター 理科教材作成専門部
活動計画

1 活動のねらい

自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに、自然の事象・現象についての実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養うことが、小学校の理科教育の目標となっている。

そこで、実感しにくい内容を学習するためのデジタル教材を作成することで、科学的な見方や考え方の育成を図ることとする。

2 活動計画

専門部	活動内容	活動計画			
		月	平成25年度	月	平成26年度
理科教材作成専門部	・デジタル教材作成ソフトについての共通理解 ・研究をする学習領域等の確認	5	第1回専門部会 研究の方針検討 活動組織 研究計画立案	5	第1回専門部会 教材の検討
	・資料の収集	9	第2回専門部会 作成内容の確認 教材の作成	9	第2回専門部会 作成した教材の検証
	・デジタル教材の開発と 情報発信	2	第3回専門部会 教材の検討 資料の整理	2	第3回専門部会 ホームページへの掲載 情報発信

3 活動の留意点

- ・小学校・理科の授業の中で活用しやすい新単元の教材開発に重点を置く。
- ・新学習指導要領を踏まえ、資料の作成を図る。
- ・ものづくりの視点からのデジタル教材を作成する。
- ・作成した教材は、教育研究所ホームページより発信する。

学習指導教材センター 理科教材作成専門部活動報告

1 活動のねらい

自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに、自然の事象、現象についての実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養うことが、小学校の理科教育の目標となっている。

そこで、科学的な見方や考え方の育成を図る観点を踏まえ、学習内容の定着のために効果的な学習素材を作成するとともに、デジタル教材作成ソフトでの新規コンテンツの作成や既存のコンテンツの効果的な活用の在り方を研究する。

2 活動内容

- (1) 本市児童の理科学習における基礎・基本の定着状況の把握
- (2) 教材作成が必要な単元の洗い出し
- (3) 教科特性の理解とデジタル素材並びにデジタル教材等の収集と開発
- (4) 教材を使った授業実践

3 活動の状況

- (1) 平成25年度
 - 第1回研究会 平成25年 7月 5日 (金) 16:00～ 学習指導教材センター
 - 第2回研究会 平成25年11月26日 (火) 16:00～ 学習指導教材センター
 - 第3回研究会 平成26年 2月18日 (火) 16:00～ 学習指導教材センター
- (2) 平成26年度
 - 第1回研究会 平成26年 7月 4日 (金) 16:00～ 学習指導教材センター
 - 第2回研究会 平成26年11月18日 (火) 16:00～ 学習指導教材センター
 - 第3回研究会 平成27年 2月 5日 (木) 16:00～ 学習指導教材センター

※他に自主研究会を実施

4 活動のまとめ(制作教材等) 別添

5 研究の成果と課題

- (1) 動画やアニメーションを活用した学習教材は、児童の興味関心を高め、学習意欲を持続することができた。特に電気分野において、専門部員が作画した図は児童にとってもわかりやすいものとなった。

また、教材を作成する過程で、NHKやJST、理科ネットワークなど多くの機関・団体で良質な教材・素材が提供されているのが確認できたので、今後も活用したい。

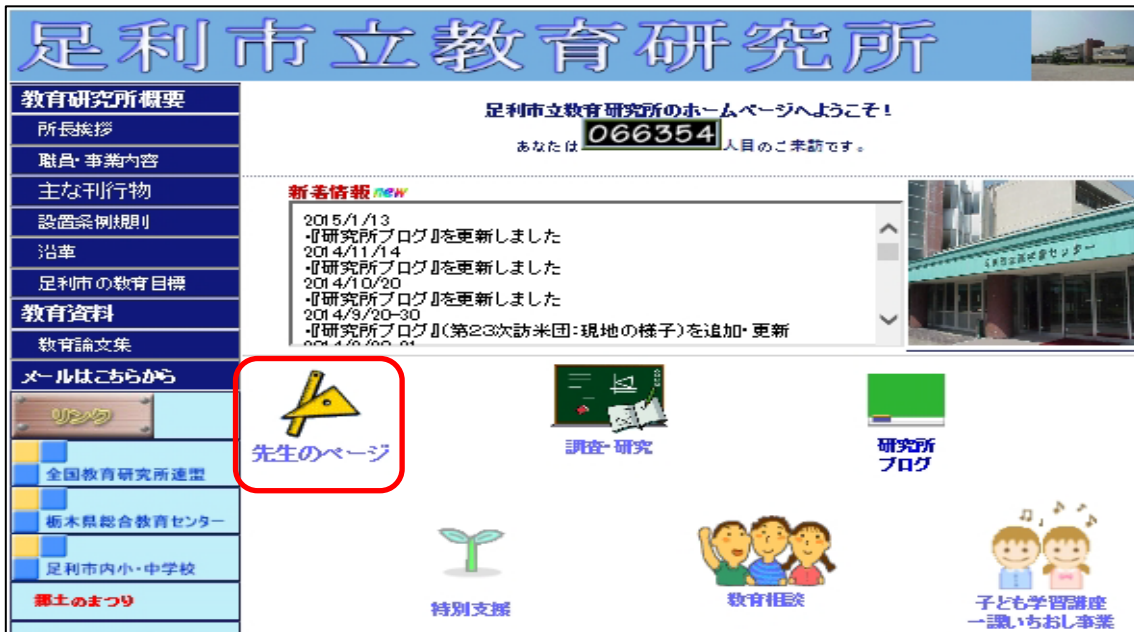
さらに、三球儀とウェブカメラを組み合わせた月の満ち欠けの指導では、それぞれの天体の位置関係と見え方など、実際の観察と同じ状態が再現でき、児童にとって理解しやすいものとなった。

- (2) 課題

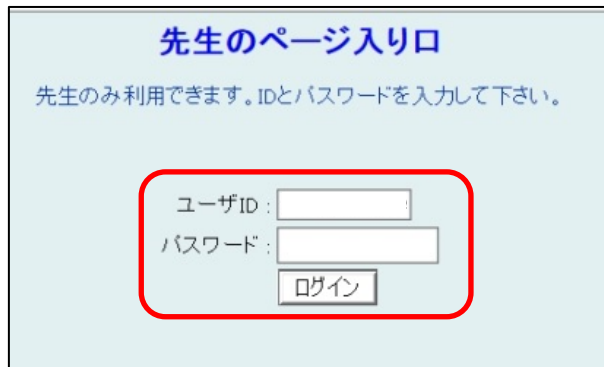
作成した教材について、作成者にとっての使い勝手は良いが、別の人にとって使いにくいと言うような問題もある。そのため、より汎用性の高いものにしていく必要がある。また、児童にとって、取り扱う教材によっては、平面でモデリングした場合、かえって分かりにくくなってしまいうので、できる限り実物教材とリンクしたものを作成していく必要がある。

【平成25・26年度の成果】

1 足利市立教育研究所ホームページの『先生のページ』をクリックします。



2 IDとパスワードを入力し、ログインをクリックします。



3 く『学習指導教材センター』へのリンクををクリックします。



4 各教科の『平成25・26年度教材』をクリックします。

学習指導教材センターのページへようこそ
ご来賓が教えられる、メールにてご連絡ください。

国語科教材開発専門部

- 平成25・26年度教材** →
- 平成23・24年度教材
- 平成21・22年度教材
- 平成19・20年度教材

社会科教材開発専門部

- 平成24年度教材【のびゆく足利 指導事例】
- 平成23年度教材【のびゆく足利 指導書】
- 平成21年度教材
- 平成19・20年度教材

算数・数学科教材開発専門部

- 平成25・26年度教材**
- 平成21～24年度教材
- 平成19・20年度教材
- 平成17・18年度教材

理科教材開発専門部

- 平成25・26年度教材**
- 平成21・22年度教材
- 平成20年度教材

国語科の部屋へようこそ (H25～26)

学年	単元名	GAME	dbookPRO	指導技法	ワークシート	授業の進行
小3	すがたをかえる犬屋	—	★	★	★	★
小5	天気を予想する	—	★	★	★	★
小5	同じ読み方の漢字	★	★	★	★	★

国語科

1 天気予想する

2 気象予報図（気圧・気温・湿度）

3 読み進め

読み進めは、どうして高くなったのでしょうか。

6 より早く、より正確に予想！

7 二つの理由

8 気象予報図

11 局地的な天気の変化

12 読み進め地帯の天気の変化を予想してみよう。

13

指導略案

ワークシート

学年	単元名	指導要領	学習指導要領	学習指導要領	学習指導要領	学習指導要領
小5	天気を予想する	言語活動を通して、自分の考えを表現し、相手の考えを聴くことができるように育てる。	①自分の考えを表現し、相手の考えを聴くことができるように育てる。	②自分の考えを表現し、相手の考えを聴くことができるように育てる。	③自分の考えを表現し、相手の考えを聴くことができるように育てる。	④自分の考えを表現し、相手の考えを聴くことができるように育てる。

小学校 第5学年 国語科学習指導略案

- 単元名 説明のしかたについて考えよう
教材名 天気を予想する
- 指導概観
本学級の児童は、男子14名、女子16名（計30名）が在籍している。明るく活波で、何事にもまじめに取り組む児童が多い。学習面では、繰り返し作業などを好み、根拠強く進めることができる。
「天気を予想する」は全体を通した一つの大きな問いが存在せず、一つの問いに対する答えの中から新たな問いが生まれるという関連性をもって、問いと答えが二回繰り返される構成となっている。読みの思考の流れにのりながら、筆者の主張へと徐々に論の方向性を近づけるような展開である。また、表・図・グラフなどの資料を効果的に用いて、読みを納得させるように展開している点も大きな特徴である。そこで、本単元では筆者の問いとその答えを本文の中から見つけていく学習の中で、筆者の説明のしかたの工夫にも着目させ、要旨をつかまらせる学習がよいと思われる。児童には、筆者が文章の構成を工夫したり、表・図・グラフなどの資料を用いたりした理由を考えさせ、それを手がかりに筆者が読者に伝えたいことをより深く理解できるようにしたい。そこで、本教材では、8つの資料が使われているが、「資料は多いほどよい」「どれも大事」と思いがちの子どもたちにも、「大事な資料を3つ選ぶ」という学習課題を出すことで、「どの資料が大事なのか」を単元を通して常に意識させながら、筆者の説明の工夫を詳しく読み取らせていきたい。また、本教材は、難しい語句が多いが、内容を読み取ることが難しい児童が出てくると思われる。そこで、「dbook」で作成したスライド教材で視覚的に内容をイメージしたり、リワード教材を用いて物語の概要をおさえたり、言葉クイズで事前に重要語句をおさえたりすることで、既習文を深く読み取ることができるようしていきたい。
- 本時の展開 (2/7)
(1) 教科名 「天気を予想する」
(2) ねらい 「天気を予想する」の内容をとらえ、本単元の学習の見通しをもつことができる。

(3) 展開

学習活動	時間	指導
1 本時の学習課題を確認する。 本文の内容をもっとよく知り、学習課題を考えよう。	5分	・前時に書いた初案題を確認する。 ①何か不安な箇所はありますか。
2 スライド教材を見て、本文のおおまかな内容をつかむ。	10分	・「dbook」のスライドを見て、本文のおおまかな内容をつかむ。
3 言葉クイズをする。	5分	・難解語句があつてできるように、質問をおさえておく。
4 リワード教材を読む。	5分	・教師の前座を読みかき。
5 8つの資料の中から、大事な3つを選ぶ。	10分	・2～3人のグループ教材を読みながら話し、理由を考えよう。 ①グループで意見を聞き合おう。 ②発表の順番を決めよう。
6 予想を確認し、単元の学習課題を設定する。	8分	・「どの資料が大事か」を話し合おう。
7 次時の学習内容を聞く。	2分	・大事な資料を選ぶために、次時から詳しく読み取っていくことを伝える。

算数科の部屋へようこそ (H25~26)

学年	単元名	dbookPRO	指導案	授業の様子
小1	たし算	★	★	-
小1	いくつといくつ	★	-	-
小1	かたちをつくらう	★	★	★
小3	二等辺三角形と正三角形	★	★	-
小3	円と球	★	★	-
小5	四角形と三角形の面積	★	★	★
小5	正多角形と円	★	★	★
小6	文字と式	★	★	-
小6	いろいろな単位	★	★	-
小6	特殊な図形	★	★	-
小6	拡大図と縮小図(1)	★	★	-
小6	拡大図と縮小図(2)	★	★	-
小6	割合の数	★	★	-
小6	6年間の復習	★	★	-
小6	リクタイマー	★	-	-

動画

指導略案

円と球WEB

「円と球」のいろいろな動画を見て、「円と球」マスターになろう!

コンパスの使い方 | 球の切り口 | ホールと球の面積

コンパスを使って半径5cmの円をかこう!!

しょうす上手にかけるコンパス大しゅっかい!!

dbookPRO

1 円と球

2 円と球

3 円と球

4 円と球

5 円と球

小学校 3 年 算数 『円と球』 P.C. dbookPRO 実物投影機 大型テレビ

同時進行型

実用テーマ 円の作図の仕方を視覚的に学び、定規を図る。

授業の進め方・C.T.I.の活用の仕方

〈導入〉コンパスの仕組みを観覧し、円の作図の見通しをもたせる。(本時の学習の異地作り)

〈展開〉円の作図の仕方を、デジタルコンテンツを用いて学ぶ(作図法の共有)

- ・自らの作図の仕方や、作図してきた円を、実物投影機で発表させる。(作図法の共有)
- (まとめ) 円の作図の仕方を振り返らせる。(正しい作図の仕方の定着)

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動	使用する教材 (デジタルコンテンツ等)
導入	<ul style="list-style-type: none"> これまでの円の学習を振り返り、円の特徴やかき方を振り返る。 コンパスを児童に配り、円をかきコンパスの仕組みについて調べさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自作教材 使用ソフト: dbookPRO
展開	<ul style="list-style-type: none"> 発表されたコンパスの仕組みをもとに、円の作図の仕方を、デジタルコンテンツを用いて学ぶ。 実物投影機で児童がノートに書いた円を発表したり、児童が円を作図する様子を発表したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自作教材 使用ソフト: dbookPRO 動画(コンパスの使い方) http://navi.benesse.ne.jp/sho/3stu/plan/sumu/kyoku/
まとめ	円の作図の仕方を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 自作教材 使用ソフト: dbookPRO

児童の反応・効果

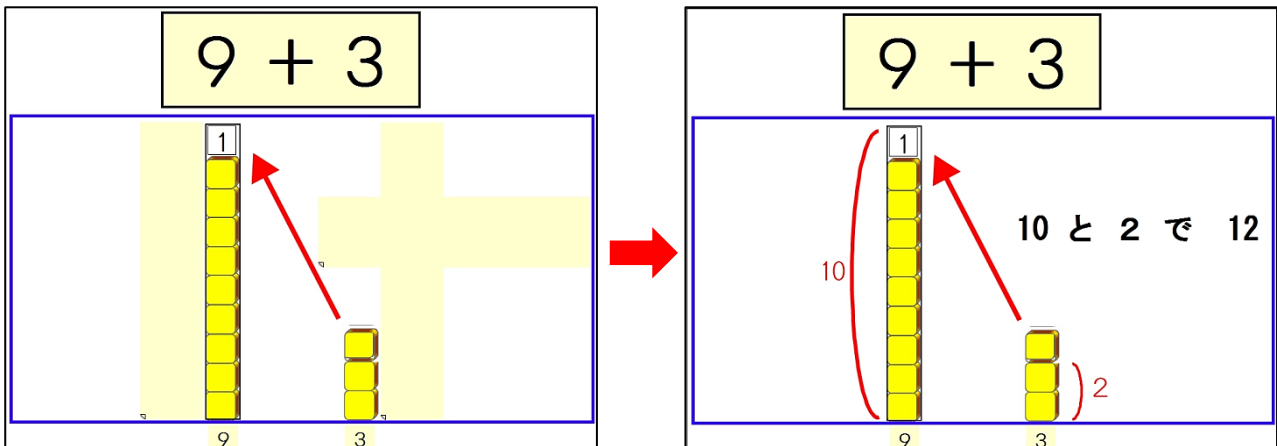
- ・大型テレビ上に作図の方法を写すことで、児童全員が集中し、作図の仕方を共有することができた。ほとんどの児童に正しく円を作図させることができた。「難しかったけれど、コンパスがめった」「うまくかけるようになった」との声が聞かれた。
- ・作図の動画を見せることで、手の位置や力加減、コンパスの傾きについて、視覚的に学ぶことができた。
- ・実物投影機を用いて、友だちの作図を見ることで、上手なところや改善点を伝え合う様子も見られた。

活用のポイント

- ・作図の定着に個人差が見られるため、机間指導を充実させ、丁寧な個別支援も必要となる。

【例】小1「たし算」

1 dbookPRP の画面より



付せんをはがすと・・・

2 指導略案

小学校 1年 算数 『たし算』 PC dbookPRO 実物投影机		
同時進行型	始	終
実践テーマ	ブロックを動かして10のまとまりを作ること、短時間で視覚的に理解させたり、振り返らせたりする。	
授業の進め方・ICTの活用の仕方 〈導入〉9 + 3の計算式を、10のまとまりを作って計算する加数分解の方法を、dbookPROのブロック図を用いて振り返る。(前時の振り返り) 〈まとめ〉加数分解と被加数分解の方法を、5 + 9や9 + 9の計算式を用いてまとめる。(まとめ)		
本時の展開		
学習の流れ	主な学習活動	使用する教材 (デジタルコンテンツ等)
導入	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習(9 + 3)を10のまとまりを作って計算したことを、dbookPROのブロック図にて振り返りを行う。(前時の復習) 本時は7 + 9の計算であることを伝え、どのように計算すると簡単にできるかを、考えていくことを知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●大型TV ●自作教材 使用ソフト: dbookPRO
展開	<ul style="list-style-type: none"> 児童が机上でブロックを操作し、7 + 9の計算を自力解決させる。 自分で考えた計算方法を、ノートやワークシートに表現する。(図、言葉、数字など) 考えた計算方法をペアの児童と伝え合う。 全体で発表し、加数分解と被加数分解によるやり方を対比させ、紹介する。 被加数分解を用いた確認問題を行う。 ※ここではさくらんぼ計算は取り上げず、ブロック操作で10のまとまりを作ること意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロック(算数セット) ・ノート ・筆箱
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 加数分解と被加数分解によるたし算の方法を振り返る。 本時の学習で分かったことなどを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●大型TV ●自作教材 使用ソフト: dbookPRO
児童の反応・効果 短時間で振り返りやまとめを行うことができ、児童を飽きさせず、集中力を高める効果があった。		
活用のポイント ・児童に計算方法を説明させながら、教師がマウスなどでブロックを操作したり、めくり付箋を開いていくようにする。		

理科

電子黒板で使える『理科教材画像』

100回巻きコイル	200回巻きコイル(紐あり)	200回巻きコイル	200回巻きコイル	電鈴
				電扇
ファン	ファン	モーター	ファンモーター	ファンモーター
				電圧計
電池	電池	回路板	回路板	電圧計
				電圧計
コンパス	コンパス	コンパス	コンパス	電圧計

理科学習教材研究シート

実施学年 4年 教材名 電気のはたらき(実験1)

研究のねらい 見やすく、分かりやすい回路図を提供する。

研究の概要 誰でも、いつでも分かりやすい回路図を子どもたちに提示できるように、電子黒板で使える理科教材画像を作成した。

授業展開例

学習の流れ	主な学習活動	活用する教材
導入	<ul style="list-style-type: none"> 【直列つなぎ】 【並列つなぎ】 	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板 個人用「電気のはたらきセット」
展開	<ul style="list-style-type: none"> 力だめしの練習問題に取り組み、①次のア～オのうち、スイッチを入れたとき、モーターが特に速く回るつなぎ方が2つあるよ。また、モーターの回る向きが違ってくるつなぎ方が1つだけあるよ。どれだかわかるかな？ 	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板 フタネット教材

まとめ

- 電子黒板と通常黒板を
- 児童の反応を
- 見やすく、考えやす

理科の部屋へようこそ (H25～26)

電気のはたらき

学年	指導計画	実験1	実験2	実験3	提示用画像素材	電子黒板用画像素材
小5	★	★	★	★	★	★

雲と天気の変化

学年	単元名	dbookPRO	ワークシート	指導計画指導略案	お天気マーク
小4	足利の天気を予想しよう！ 「台風」	★	★		
	天気予報に挑戦しよう！ 「雲の動き」	★	★	★	★
	天気予報に挑戦しよう！ 「夏の天気」	★	★		
	天気予報に挑戦しよう！ 「冬の天気」	★	★		

足利の天気を予想しよう！

10月4日 10月5日 10月6日

予想

平成25・26年度 専門部長及び専門部員

(1) 学力向上問題作成専門部

《国語科部会》

専門部長	齋藤 良一 (H25 三重小学校長)
	鈴木 一弘 (H26 三重小学校長)
専門部員	小松原茂雄 (毛野南小学校)
	植木 美穂 (三重小学校)
	大坂家 寛 (H25 小俣小学校)
	猿橋 裕美 (H26 山前小学校)
担当所員	大森 順子 (H25 学校教育課)
	近藤 忠 (H26 学校教育課)

《算数科部会》

専門部長	岩崎 和則 (毛野南小学校長)
専門部員	新井 達也 (青葉小学校)
	川田 拓郎 (山辺小学校)
	秦 和久 (山前小学校)
	阿倍 幸子 (H25 御厨小学校)
担当所員	福田 郁男 (H25 教育研究所)
	中村 徳幸 (教育研究所)
	岡崎佐季子 (H26 教育研究所)

(2) 教材作成専門部

《理科部会》

専門部長	村田 正幸 (H25 矢場川小学校長)
	村山 哲也 (H26 葉鹿小学校長)
専門部員	野原 由香 (東山小学校)
	石塚 将也 (桜小学校)
	林 寿昭 (H25 北郷小学校、H26 毛野小学校)
	福井 友貴 (三重小学校)
担当所員	赤坂 治之 (教育研究所)